

## 全産連第11回定時総会及び連合会会長表彰

公益社団法人全国産業資源循環連合会（全産連）の定時総会は、例年であれば、東京都内で全国から全員が一同に会して開催されるところですが、本年度は、新型コロナウィルス感染防止のため、全産連会議室を本会議場とするWeb会議形式にて開催されることとなり、当協会も協会事務所からリモート参加しました。

本年度の総会は、令和3年6月18日13時30分に開会し、「令和2年度事業報告及び決算案の承認」が上程され、

賛成多数で承認されました。さらに、報告事項として、「令和3年度事業計画」等の説明が順次行われ、議事は肅々と進められました。

また、例年この総会に合わせて開催される全産連会長表彰の授賞式は、残念ながら中止となりました。

なお、令和3年度における当協会会員の受賞者は、次の方々です。

### 全産連会長表彰

【功労者】	入江 司 (有)尾鷲環境開発
【地方功労者】	中村 雪夫 (有)クリーンテック名張
	平野 竜之 (三総土木有)
【優良事業所】	株式会社 コスマ
【地方優良事業所】	株式会社 益生小型運送 株式会社 鈴淨会 鈴鹿営業所

【優良従事者】	高森 和徳 (キンキ・パートナーズ(株)島ヶ原リサイクル工場)
	諸岡 克浩 (塩浜工運株)
	芝原 宇太朗 (宮古島建設工業株)
	内田 俊彦 (株後出建材土木)
	竹内 桂仁 (株ケイ・イー・シー)

## 連合会会長表彰を受賞して

本年度の全産連会長表彰において、功労者表彰を受けられた（有）尾鷲環境開発 代表取締役社長、当協会理事の入江司様から、ご感想の寄稿をいただきました。

この度は、公益社団法人全国産業資源循環連合会功労者表彰を賜り誠にありがとうございました。

弊社は、平成4年に三重県尾鷲市で創業して以来、今日に至るまで事業系一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬処分、特別管理産業廃棄物の収集運搬を行い、廃棄物の適正処理並びに資源のリサイクルに取り組んでまいりました。



入江 司 氏

### 全産連で功労者表彰 入江 司 協会理事

近年、プラスチック類による海洋汚染や不法投棄の問題が取り沙汰される中で、弊社では不法投棄多発箇所道路沿いへの不法投棄防止看板の設置やパトロール活動、地元の清掃活動へ参加等を通して地域住民の皆様が安心・安全な生活ができるように活動を行うとともに、廃棄物の処分に際しても分別及び処理方法を常に模索し、リサイクルが可能となるように取り組んでおります。

今回弊社のこれまでの活動が貴法人に認められ功労者表彰を賜った事は大変光栄に存じますとともに、今後はこれまで以上に連合会・業界発展の為に、気を引き締めて適正処理の推進に精進して参る所存です。

## 県政課題に関する団体懇談会

協会では、会員の皆様等から寄せられた要望事項を取りまとめ、県議会各派等の関係団体に対して要望活動を行っています。

本年は、去る7月16日に新政みえに対し、井上会長ほか協会幹部が出向いて、要望内容の説明と意見交換を行いました。

懇談会の冒頭では、井上会長から、コロナ禍の事業の落ち込みから回復の兆しがみられることがや当業界がエッセンシャルワーカーとしての存在感を増したこと等、現下の状況と共に産廃税を活用した補助金の対象者の拡大や県表彰制度などに感謝を述べたうえで、次の事項について要望しました。

- ・三重県産業廃棄物税を活用した補助事業の利用推進について
- ・維持管理計画の変更に関する手続きの合理化について
- ・優良認定処理業者の活用について
- ・認定リサイクル製品の利用推進について

- ・処理施設の設置に係る合意形成手続きについて
- ・廃棄物処理業許可にかかるデジタル対応について

要望事項に関する意見交換では、内容を掘り下げたご質問もいただき、また、時代の流れや業務の効率性の観点から要望内容は理解する旨のコメント等もいただきました。要望内容に対する見解につきましては、今後、県当局の考え方も聴取されたうえで、ご回答をいただけることとなっています。

このほか、会員各位にご意見を募集させていただいた際には、不法投棄の防止、災害対策、SDGsを含めた環境教育の充実など、貴重なご提案をいただきましたので、時間の関係等で今回の要望活動では触れられなかった内容につきましては、関係する行政との協議会の場等を活用して意見を述べていきたいと考えています。なお、自由民主党三重県連に対する要望活動については、コロナ禍の状況から、文書によることとなりました。

## 協会若手会員と三重県廃棄物対策局長との懇談会の開催 青年部顧問 光友裕昭



県行政と若手会員の懇談会

令和3年7月14日（水）10：00より三重県庁にて、三重県環境生活部廃棄物対策局 増田局長様をはじめ尾邊次長様、西田課長様と当団体の光友総務委員長（株吉野興産）・児島適正処理委員長（株リーテック）・宮崎青年部会長（株ミヤテック）・前山適正処理委員（三重中央開発株）・山本優良産廃処理業者推進専門部会員（株山本建材）の5名で若手を中心とした意見交換会を開催して頂きました。

冒頭に増田局長様からご挨拶頂き、三重県の循環型社会形成推進計画の考え方や取組についてお話を頂いた後、1時間半ほど意見交換をさせて頂きました。

今回は議題やテーマを特に定めず、フリートーク形式で様々な意見交換をする場になりました。協会側からは、人材育成のあり方や処理業としての悩み、また、業界としての新技術の開発・廃プラスチックの今後のリサイクルの展望や今後の他業種とのタイアップ、DX（デジタルトランスフォーメーション）への業界としての今後の取組等についてお話をさせて頂き、興味をもって耳を傾けていただいたと感じています。

このような若手との意見交換会は初めてのことでもあり、様々な意見が飛び交う活発な情報交換となりました。次回からはテーマ等も決めて継続的に実施して頂けるとの事です。

懇談会を終えて、県行政と今までの我々業界との関係性は少しづつ変化が生まれつつあると実感致しました。三重県では、今年度から、新たに新技術を導入する際の開発や設置にも補助金制度も創設して頂いております。今後の意見交換会も具体的な日程調整を進めておりますので、その結果につきましてはご報告をさせて頂きます。

## 産廃処理業からデカフェコーヒー製造業への挑戦

令和3年度第10回総会の記念品として会員の皆さんに頒布させていただいたデカフェコーヒーについて、株ケイ・イー・シー様から寄稿をいただきました。

デカフェコーヒーの誕生は、もとは超臨界流体技術を廃棄物の分解に応用しようと思い、研究開発を開始したことがはじまりでした。研究していく段階で、コーヒー焙煎業者様より「コーヒー豆からカフェインを抽出できないか」という引き合いが複数あったことから、2020年1月に三重県桑名市にて量産工場が竣工し、デカフェ事業を本格稼働しました。

弊社のデカフェ処理は水と二酸化炭素を使用しますが、新たに二酸化炭素を生成するだけでなく、工場で排出された二酸化炭素を食品グレードに精製したものを使用しています。また処理に用いる二酸化炭素は使用後に廃棄するのではなく、循環して再利用するプロセスとなっています。また、国内初のデカフェ量産工場でもあります（当社調べ）、有機溶媒は一切用いず国内処理のため安心して飲用していただけます。

これは、SDGsに合致したプロセスで、環境にも人体にも負荷の少ない処理工程となっており、弊社の企業理念である「持続可能な社会の実現に貢献する」を、新規事業においても遵守しています。

現在は、記念品で扱って頂いた自社商品DECACOを全国の小売店で販路拡大、飲料メーカーへの提案営業、そしてオンラインショップの販売にも注力しています。また工場では有機JAS認証を取得し、より幅広い顧客要望に応えられる体制となりました。今後、コーヒー豆のデカフェ加工業者として日本のデカフェ市場を活発にし、そして誰にでもどんな時間・状況でも寄り添える「相棒（コーヒー）」になりたいと思っています。自社商品に関しては、まずは全都道府県で販売していただくことを目標に、日本全国の皆様に安らぎを提供できたらと思います。

ケー・イー・シーグループとして本体の産業廃棄物処理業と新規のデカフェ事業、この二つの柱で今後とも精進してまいります。

<https://www.decaco.jp/>



デカフェ処理プラント



焙煎したコーヒー豆

